

平成25年度病害虫発生予報第12号

長崎県病害虫防除所長

向こう1か月間における主な病害虫の発生動向は次のように予想されます。

農作物名	病害虫名	発 生 程 度	
		現 況	予 想
麦 類	うどんこ病	並	並
きゅうり	べと病 うどんこ病 褐斑病 菌核病 灰色かび病 ミナミキイロアザミウマ(防除情報第13号) コナジラミ類	並 やや多 少 並 やや少 やや多 やや少	並 やや多 少 並 やや少 やや多 並
トマト	黄化葉巻病 灰色かび病 コナジラミ類	やや少 やや少 並	やや少 やや少 やや多
いちご (本圃)	うどんこ病 灰色かび病 アブラムシ類 ハダニ類	やや少 並 少 並	やや少 並 やや少 やや多
たまねぎ	白色疫病 べと病(注意報第2号) ネギアザミウマ	並 やや多 並	並 やや多 やや多
かんきつ	そうか病 かいよう病 ミカンハダニ	並 少 やや少	並 少 並
果樹共通	クワゴマダラヒトリ	少	少
茶	カンザワハダニ	やや多	やや多

【発生予報】 本文の()内は平年値

麦 類

1. うどんこ病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア 3月上旬の巡回調査(大麦9筆、小麦15筆)の結果、発生を認めなかった(発生を認めない)。

イ 3月2半旬の県予察圃場(無防除、諫早市)調査の結果、発生を認めなかった(発生を認めない)。

きゅうり

1. ベと病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

3月上旬の巡回調査(12筆)の結果、発病葉率は7.0%(4.9%)、発生圃場率は41.7%(44.4%)であった。

2. うどんこ病

(1) 予報内容

発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

3月上旬の巡回調査(12筆)の結果、発病葉率は11.9%(9.0%)、発生圃場率は100%(67.4%)であった。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 病勢が進行すると防除困難になるため、早期防除に努める。

イ 薬剤耐性発達防止のため、同一系統の薬剤を連用しない。

3. 褐斑病

(1) 予報内容

発生程度 少

(2) 予報の根拠

3月上旬の巡回調査(12筆)の結果、発生を認めなかった(発病葉率5.7%、発生圃場率54.2%)。

4. 菌核病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

3月上旬の巡回調査(12筆)の結果、発生を認めなかった(発病果率0.0%、発生圃場率4.2%)。

5. 灰色かび病

(1) 予報内容

発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

3月上旬の巡回調査(12筆)の結果、発生を認めなかった(発病果率0.1%、発生圃場率7.4%)。

6. ミナミキイロアザミウマ

平成26年3月18日付け病害虫発生予察防除情報第13号による。

7. コナジラミ類

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア 3月上旬の巡回調査(12筆)の結果、寄生葉率は1.2%(3.6%)、発生圃場率は33.3%(34.5%)であった。

イ 向こう1か月の気温は平年より高く、降水量は平年並か少ない見込みであり本虫の発生に好適である。

(3) 防除上注意すべき事項

ア 密度が高くなると防除が困難になるので発生初期に防除する。

イ 薬剤抵抗性発達防止のため、同一系統の薬剤を連用しない。

ウ キュウリ退緑黄化ウイルスの伝染環を遮断するため、栽培終了時に密閉陽熱処理等によって死滅させ施設外への分散を防ぐ。

トマト

1. 黄化葉巻病

(1) 予報内容

発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

3月上旬の巡回調査(12筆)の結果、発病株率は0.2%(過去9カ年平均0.6%)、発生圃場率は8.3%(同26.0%)であった。

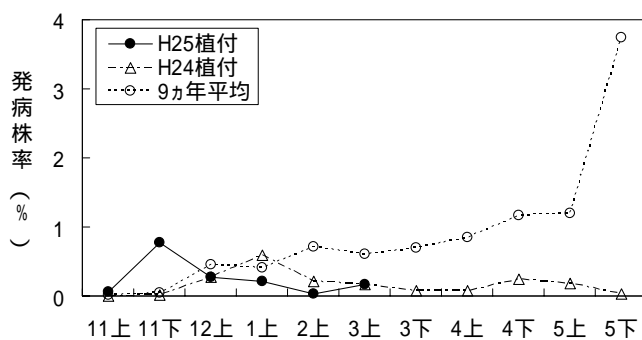


図 トマト 黄化葉巻病 発病株率の推移

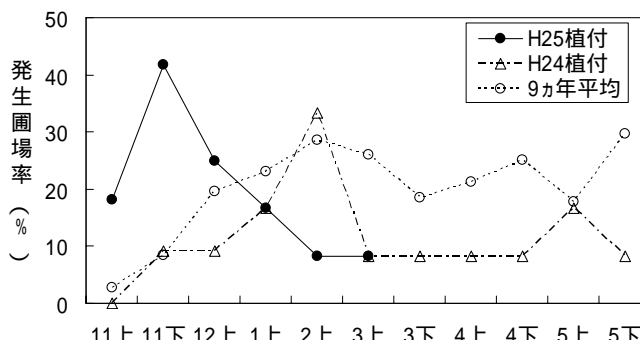


図 トマト 黄化葉巻病 発生圃場率の推移

2. 灰色かび病

(1) 予報内容

発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

3月上旬の巡回調査(12筆)の結果、発病果率は0.0%(0.3%)、発生圃場率は8.3%(26.0%)であった。発病葉率は2.7%(前年0.8%)、発生圃場率は25.0%(同16.7%)であった。

3. コナジラミ類

(1) 予報内容

発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

ア 3月上旬の巡回調査(12筆)の結果、寄生葉率は0.3%(寄生株率0.6%)、発生圃場率は16.7%(15.8%)であった。

イ 向こう1か月の気温は平年より高く、降水量は平年並か少ない見込みであり、本虫の発生に好適である。

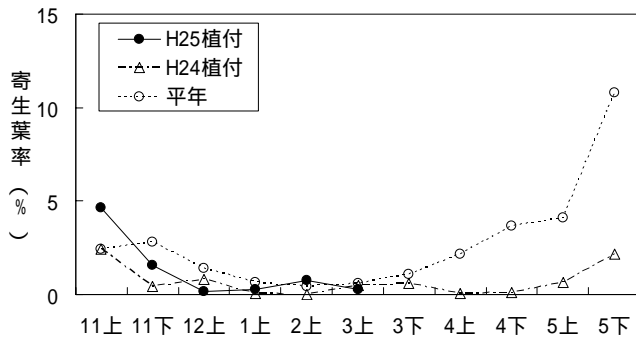


図 トマトコナジラミ類 寄生複葉率の推移

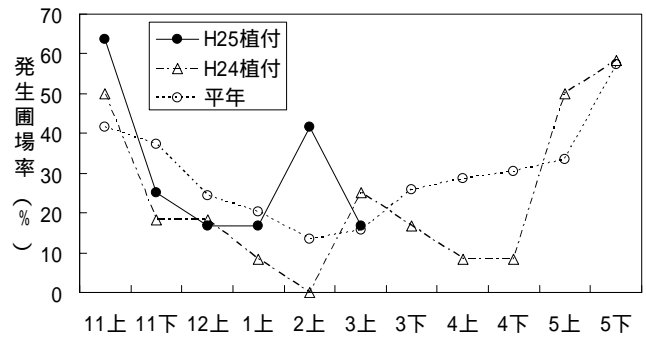


図 トマトコナジラミ類 発生圃場率の推移

(3) 防除上注意すべき事項

- ア 하우스内の雑草は、本虫の生息・増殖源となるので除去する。
- イ トマト黄化葉巻病の二次伝染を防ぐため、発生初期に防除し本虫の密度をできるだけ低くする。
- ウ 薬剤抵抗性発達防止のため、同一系統の薬剤を連用しない。

いちご

1. うどんこ病

(1) 予報内容

発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

3月上旬の巡回調査(27筆)の結果、発生を認めなかった(発病株率0.0%、発生圃場率2.3%、発病果率0.0%、発生圃場率0.5%)。

2. 灰色かび病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 発生状況等

3月上旬の巡回調査(27筆)の結果、発病果率は0.1%(0.2%)、発生圃場率は18.5%(18.1%)であった。

3. アブラムシ類

(1) 予報内容

発生程度 やや少

(2) 予報の根拠

ア 3月上旬の巡回調査(27筆)の結果、寄生株率は0.1%(0.7%)、発生圃場率は3.7%(8.8%)であった。

イ 向こう1か月の気温は平年より高く、降水量は平年並か少ない見込みであり本虫の発生に好適である。

4. ハダニ類

(1) 予報内容

発生程度 やや多

(2) 発生状況

ア 3月上旬の巡回調査(27筆)の結果、寄生株率は5.5%(5.0%)、発生圃場率は29.6%(39.3%)であった。

イ 向こう1か月の気温は平年より高く、降水量は平年並か少ない見込みであり本虫の発生に好適である。

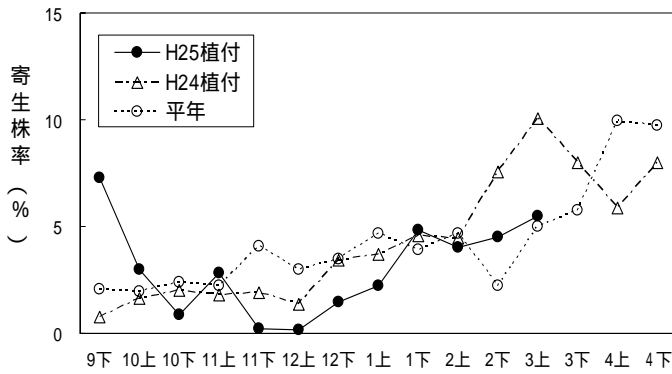


図1 いちご ハダニ類 寄生株率の推移
 平年: H15～H24の平均値(最大・小値除く)
 ただし、12/下、1/下、2/下はH19～H24の平均値

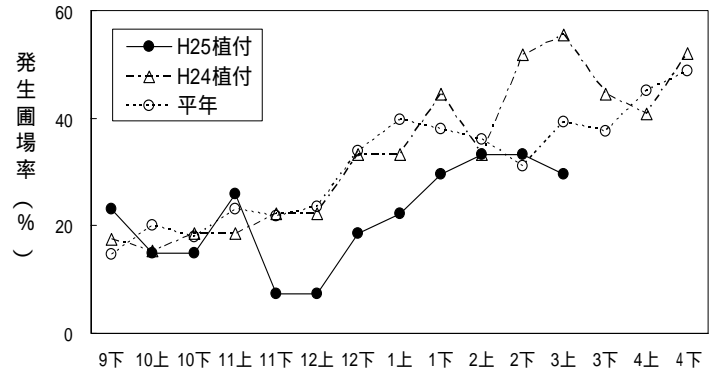


図2 いちご ハダニ類 発生圃場率の推移
 平年: H15～H24の平均値(最大・小値除く)
 ただし、12/下、1/下、2/下はH19～H24の平均値

(3) 防除上注意すべき事項

- ア 葉裏に多く寄生するので、薬剤散布は古葉の整理を行なった後、薬液が葉裏に十分かかるように丁寧に散布する。
- イ 薬剤抵抗性発達防止のため、同一系統の薬剤を連用しない。
- ウ 天敵(チリカブリダニ等)を放飼している圃場で、ハダニ類の発生状況に応じ薬剤散布する場合は、天敵に影響の少ない殺ダニ剤を使用する。天敵の詳しい利用方法については県病害虫防除基準等の使用マニュアルを参考にする。

たまねぎ

1. 白色疫病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

3月上旬の巡回調査(15筆)の結果、発生を認めなかった(発病株率0.1%、発生圃場率5.8%)。

2. ベと病

平成26年3月18日付け病害虫発生予察注意報第2号による。

3. ネギアザミウマ

(1) 予報内容

発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

ア 3月上旬の巡回調査(15筆)の結果、寄生株率は29.3%(22.0%)、発生圃場率は66.7%(73.3%)であった。

イ 向こう1か月の気温は平年より高く、降水量は平年並か少ない見込みであり本虫の発生に好適である。

(3) 防除上注意すべき事項

- ア 本虫は薬剤のかかりにくい葉と葉の隙間に寄生しているので、薬剤は丁寧に散布する。
- イ 薬剤抵抗性発達防止のため、同一系統の薬剤を連用しない。

かんきつ

1. そうか病

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

3月上旬の巡回調査(36筆)の結果、発生を認めなかった(発病葉率0.0%、発生圃場率1.3%)。

2. かいよう病

(1) 予報内容

発生程度 少

(2) 予報の根拠

ア 3月上旬の巡回調査(36筆)の結果、発病葉率は0.3%(0.5%)、発生圃場率は2.8%(26.1%)であった。

イ 向こう1か月の降水量は平年並かやや少ない見込みである。

3. ミカンハダニ

(1) 予報内容

発生程度 並

(2) 予報の根拠

ア 3月上旬の巡回調査(36筆)の結果、寄生葉率は1.1%(2.1%)、発生圃場率は25.0%(30.2%)であった。

イ 向こう1か月の気温は平年より高く、降水量は平年並かやや少ない見込みであり本虫の発生に好適である。

果樹共通

1. クワゴマダラヒトリ

(1) 予報内容

発生程度 少

(2) 予報の根拠

平成25年10月に実施した産卵樹上(アカメガシワ、カラスザンショウ)における幼虫巢の発生調査の結果、県内12地区の平均発生程度は0.0であった(平成17~23年の平均:0.7)。

調査方法:発生程度を達観で極多:5、多:4、中:3、少:2、極少:1、無:0とした。

茶

1. カンザワハダニ

(1) 予報内容

発生程度 やや多

(2) 予報の根拠

3月上旬の巡回調査(16筆)の結果、寄生葉率は1.8%(1.1%)、発生圃場率は50.0%(29.0%)であった。

(3) 防除上注意すべき事項

葉裏にも薬液が十分かかるよう散布する。

【参考】

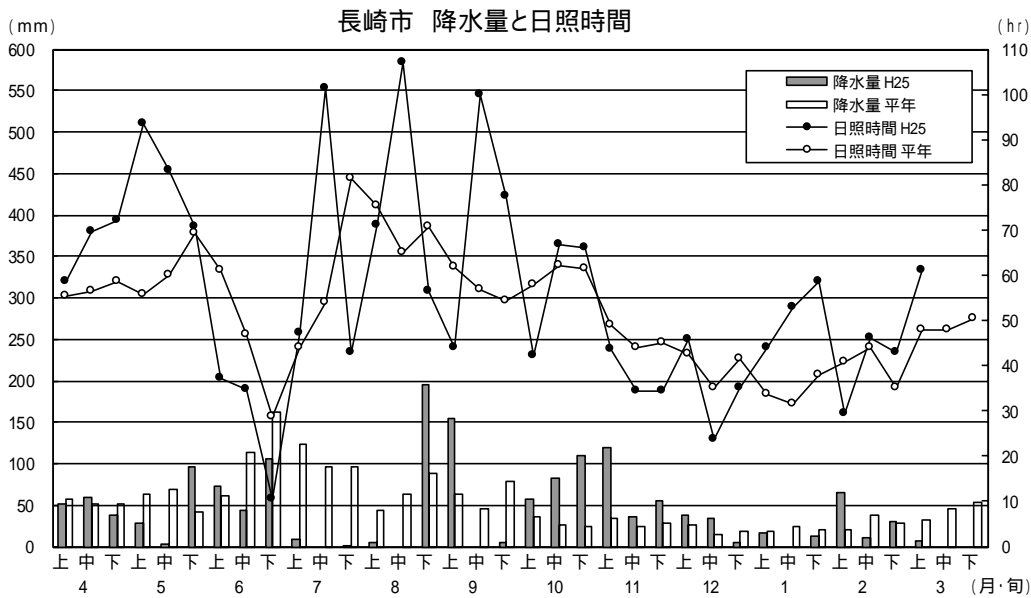
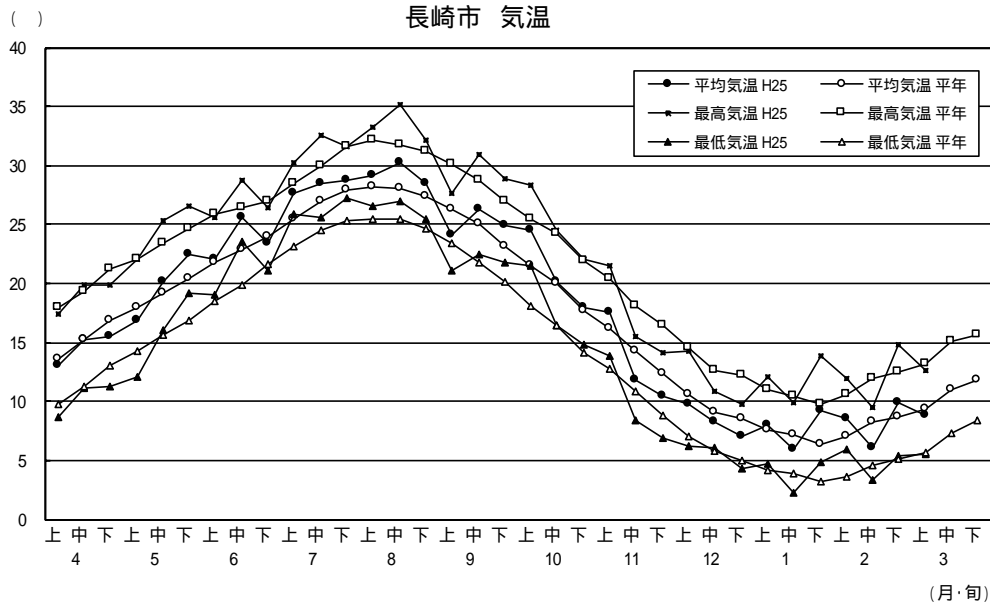
気象 (平成26年3月13日発表 1か月予報 福岡管区気象台)

要素別確率

要素	低い (少ない)	平年並	高い (多い)
気温	20	30	50
降水量	40	40	20
日照時間	20	30	50

予報対象地域：九州北部地域

平成25年度の気象経過 (長崎海洋気象台)



長崎県病害虫防除所の発行する情報の入手は、インターネットをご利用ください。

「長崎県防除所ホームページ」 アドレス：<http://www.jppn.ne.jp/nagasaki/>

この情報に関するお問い合わせ

長崎県病害虫防除所 TEL：0957-26-0027